

植物工場先端技術シンポジウム

アカデミック・プラットフォーム

Focusing on 水ストレス

開催趣旨

Society 5.0とSDGsを同時に達成しながら、若者が魅力を感じるスマート農業の地域実装を進める必要がある。デジタルトランスフォーメーション（DX）はその基盤となるものであり、わが国においても、農業生産現場におけるデータ収集と収集したデータに基づいた栽培労務管理の最適化が試みられている。特に、高度な環境調節を行う施設園芸においては、環境情報の取得と複数の生産者間で得られた環境情報を共有する例も増えてきた。このような流れの中で、「環境情報だけでは植物の生育状態を把握することが難しい。環境情報とともに生体情報も取得したい」というニーズが生じている。特に、「水ストレスの把握」は、施設園芸において最も優先して取得されるべき生体情報である。なぜなら、水ストレスには、気孔閉鎖を介して光合成を低減させる負の効果と、果実の高糖度化などに貢献する正の効果の両面があるため、ストレスの正確な把握と適切な運用が求められるからである。本セミナーでは、水ストレスとは何か…をわかりやすく説明したうえで、水ストレスが植物体の成長や発達に及ぼす影響の概略、水ストレスの把握方法と栽培管理への活用方法について論じる。

日時

令和6年1月15日(月)
16:00~18:00

参加費

無料

(資料代別：1,000円)

場所

愛媛大学農学部多目的ホール

オンライン併用（配信元：愛媛大学・豊橋技術科学大学）

定員

100名

次第

総合司会：藤内直道（愛媛大学大学院農学研究科 助教）

16:00 開会の挨拶 有馬誠一（愛媛大学植物工場研究センター長、愛媛大学大学院農学研究科 教授）

16:05 「作物の収量・品質に関与する水ストレスとその診断法」
和田博史（愛媛大学大学院農学研究科 教授）

16:55 「トマトの光合成蒸散・生育調査データの共有と環境制御・栽培管理の改善」
藤内直道（愛媛大学大学院農学研究科 助教）

17:25 パネルディスカッション「生産者主体の勉強会と植物生体情報共有の意義」
高山弘太郎（愛媛大学大学院農学研究科 教授、豊橋技術科学大学大学院工学研究科 教授）和田博史、藤内直道

17:55 閉会の挨拶 羽藤堅治（愛媛大学植物工場研究センター 副センター長、愛媛大学大学院農学研究科 教授）

18:00 閉会

主催

一般社団法人日本施設園芸協会、農業DX共創会、愛媛大学植物工場研究センター、豊橋技術科学大学 先端農業・バイオリサーチセンター

後援

日本生物環境工学会 東海・四国支部、日本生物環境工学会生物生体計測部会、「知」の集積と活用の中産官連携協議会 スマート・メガスケール植物工場研究開発プラットフォーム、CIGR(国際農業工学会) Plant factory and intelligent greenhouse WG、愛媛大学社会連携推進機構研究協力会スマート農業研究部会、植物生体情報DXによる栽培ノウハウの継承コンソーシアム（愛媛県デジタル実装加速化プロジェクト「トライアングルエヒメ」採択事業）

事務局

愛媛大学植物工場研究センター、豊橋技術科学大学 先端農業・バイオリサーチセンター

問い合わせ先

愛媛大学植物工場研究センター人材育成プログラム（担当：竹村・赤松・間宮）

☎ 089-946-9901 E-mail:zinzai@agr.ehime-u.ac.jp

参加申込フォームより
お申し込みください



申込みフォームURL

<https://receipt.agr.ehime-u.ac.jp/~sympo1/mpmailec/form.cgi>

資料を希望される方へ 折り返し資料代のお振り込み方法をメールにてご案内いたします。資料はお振り込み確認後、開催前日までにご連絡いたします。シンポジウムURLは、お申し込みいただいた全ての方に開催前日までにご連絡いたします。

申込締切：令和6年1月15日(月) 正午

資料代お振り込み締切：令和6年1月12日(金) 正午